

発行:2024年5月8日

## タイのコンケン大学と持続可能な天然ゴムに関する共同研究を開始

住友ゴム工業(株)(社長:山本悟)は、タイの国立大学であるコンケン大学とゴムノキの組織培養技術についての共同研究に関する協定をこのたび締結し、調印式を実施しました。

この研究はゴムノキの植物生理学的反応に関するデータを分析し、収量向上に繋がるメカニズムを解明する事を目的としています。これにより持続可能な天然ゴム調達に向けた取り組みを加速させてまいります。



右:コンケン大学 副学長 Dr. Thidarut Boonmars

左:次世代材料開発室長 多田 俊生

当社は2021年8月に刷新を図った「持続可能な天然ゴム方針」<sup>※1</sup>に沿ってサプライチェーン上の皆様と連携した取り組みを積極的に推進し、天然ゴムの持続可能な調達を目指しています。

現在、ゴムノキの苗木増殖で一般的に用いられているのは「接ぎ木」ですが、成長性や耐病性等の点において台木の影響を大きく受けます。一方で、当社が技術確立を進めているゴムノキの一部の組織を分離して試験管内で培養する「組織培養技術」では根と茎が同一の植物体となり、成長に有利になると考えられます。実際に、「組織培養」由来の苗は一般的な「接ぎ木」由来の苗と比較して、植え付け初期(1~2年)の成長が早いことが確認されています。

今回のコンケン大学との共同研究では、組織培養由来のゴムノキの苗と接ぎ木由来の苗の生育や葉の形の調査に加え、蒸散量<sup>※2</sup>測定等により植物生理学的反応に関するデータを取得して違いを評価し、収量向上に繋がるメカニズムを解明する事を目的としています。

将来的には、本共同研究の枠組みで当社がコンケン大学からのインターンシップを受け入れることも視野に入れており、ゴムノキの生産性向上だけでなく、生産国(タイ)の人材育成にもつなげていきます。

当社では天然ゴムの持続可能性を高める取り組みを生産性向上と臭気改善の二つの方向性で進めています。生産性向上では、ゴムノキの成長促進と樹液採取の生産性向上につながる様々な研究を実施中で、臭気改善では「臭気低減天然ゴム」の開発に成功しています。

今回の研究を進める事により天然ゴムの生産性向上を図り、持続可能な天然ゴム調達に向けた取り組みをさらに加速させてまいります。



接ぎ木



組織培養

#### ■コンケン大学について

名称	Khon Kaen University
所在地	Khon Kaen University 123 Moo 16 Mittraphap Rd., Nai-Muang, Muang District, Khon Kaen 40002, Thailand.
設立	1966 年
学部数	19 学部

当社は 2023 年 3 月に、タイヤ事業における独自のサーキュラーエコノミー構想「TOWANOWA(トワノワ)」<sup>※3</sup> を発表しました。「TOWANOWA」はバリューチェーン上の 5 つのプロセスからなる「サステナブルリング」と各プロセスから収集したビッグデータを連携させる「データリング」で構成されており、二つのリング間でデータを共有・活用することで新たな価値提供を目指します。



「TOWANOWA」の「材料開発・調達」プロセスにおいて、今回の共同研究で得られたデータを活用することで、より生産性の高い天然ゴムの調達の実現を目指し、天然ゴムの持続可能性の向上に取り組めます。「TOWANOWA」を通じ、住友ゴムは ESG 経営の推進を更に加速させ、2050 年のカーボンニュートラルの実現と持続可能な社会の発展に貢献していきます。

※1 住友ゴムグループ「持続可能な天然ゴム方針」を刷新

[https://www.srigroup.co.jp/newsrelease/2021/sri/2021\\_067.html](https://www.srigroup.co.jp/newsrelease/2021/sri/2021_067.html)

※2 植物の地上部から大気中へ水蒸気が放出される現象

※3 タイヤ事業におけるサーキュラーエコノミー構想「TOWANOWA(トワノワ)」を策定(2023 年 3 月 8 日リリース)

[https://www.srigroup.co.jp/newsrelease/2023/sri/2023\\_018.html](https://www.srigroup.co.jp/newsrelease/2023/sri/2023_018.html)

以上